

海外大学進学のための英語力、成績準備

海外の大学に進学するためには、志望校への出願書類を揃えるだけでなく、必要な英語力や一定の学力（成績）を備えていることが求められます。本記事では、英語力の証明に用いられる主な試験や、成績準備に関するポイントについてお伝えします。

■ 英語力は「スコア」で提出を求められます。

海外の大学では、英語を母語としない学生に対して、英語力の証明を求めるのが一般的です。その際に使用されるのが、以下の英語能力試験です。

【TOEFL iBT®】

TOEFL（Test of English as a Foreign Language）主に北米の大学で広く採用されていますが、世界中の多くの大学で受け入れられています。

- ・試験形式：Reading、Listening、Speaking、Writing の 4 技能
- ・スコア：0～120 点（各セクション 30 点満点）で評価
- ・特徴：大学での講義やディスカッションに即した内容で構成されている

【IELTS™】

IELTS（International English Language Testing System）は、イギリス、オーストラリア、カナダなどで広く採用されており、試験の形式が日本の英語検定とやや近いと言われているため、受験しやすい試験です。

- ・試験形式：Reading、Listening、Speaking、Writing の 4 技能
- ・スコア：0.0～9.0（0.5 刻み）で各技能と総合スコアを評価
- ・特徴：日常生活や教育現場での実践的なコミュニケーション場面に即した内容で構成されている

【英語試験の選び方】

どの試験を選ぶかは、志望校の指定に従うのが基本です。TOEFL と IELTS はどちらも世界的に認められた試験であり、多くの大学が両方に対応しています。ただし、スコアの基準は大学や学部ごとに異なり、たとえば TOEFL で 80～100 点、IELTS で 6.0～7.5 あたりが一般的な目安とされます。医療系や難関大学の場合、より高いスコアが求められる場合があります。

■ 高校の成績（GPA）の重要性

海外大学では、出願書類の一つとして高校の成績（GPA）を重視します。これは、大学での学業に取り組める見通しや高校で継続的に努力した結果等を評価するためです。

【GPA とは？】

GPA（Grade Point Average）は、各科目の成績を一定の基準で数値化し、平均値を求めるものです。海外大学に出願する際は、英文の成績証明書（Transcript）が必要となります。担任の先生や進路担当の先生を通して学校に申請し、発行を受けることが求められます。

【GPA の基準】

大学ごとに求める GPA の水準は異なりますが、おおむね以下が目安です。

- ・ 一般的な海外大学：GPA3.0 以上（5 段階評価では約 4.0）
- ・ 難関大学・有名校：GPA3.7～4.0 以上（5 段階評価では約 4.3～5.0）

GPA が基準に達していない場合でも、他の要素（課外活動、エッセイ、推薦状など）と総合的に評価されることで、合格することもあります。

■ 英語力と成績、どちらがより重要？

英語力と成績は、どちらも大学進学のために欠かせない要素です。多くの大学では「書類審査」が基本となっているため、学力（GPA）と英語スコアの両方が求められます。また、特定の学部では、英語のスコアよりも数学や理科系の成績が重視されることもあります。自分の進学したい学部の傾向を早めに調べておくとい良いでしょう。

■ いつから準備を始めればよいのか？

一般的に、英語力と成績の準備には 1 年半～2 年ほどの期間が必要です。特に英語力は一朝一夕に伸ばせるものではないため、早期に準備を始めることが大切です。

（例）

- ・ 高校 1 年～2 年：定期試験にしっかり取り組み、GPA を高く保つ
- ・ 高校 2 年～3 年：英語試験の対策を本格化し、模擬試験で実力を把握
- ・ 高校 3 年春～夏：出願に向けたスコア取得を目指す（遅くとも秋までに）

■ まとめ

海外の大学に進学するには、「英語力の証明」と「高校での成績」が大きな柱となります。どちらも一朝一夕に好成績を修めることができるものではないからこそ、早めに情報を集め、計画的に取り組むことが重要です。英語のスコアに自信がなくても、努力次第で道は開けます。まずは、自分の目指す進学先にどんな条件が求められているのかを調べることから始めてみましょう。